

「自動車の事故率(対物・車両)」について調査を実施 ～コロナ禍で自動車事故率が低下～

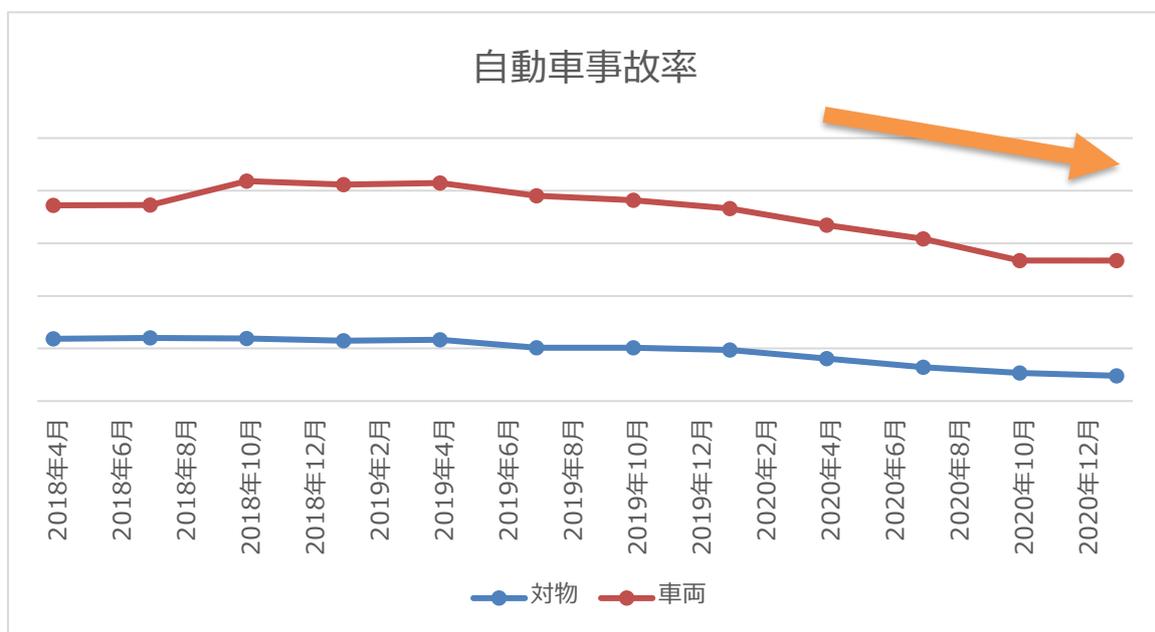
新型コロナウイルスの感染拡大により、ここ一年ほど不要不急の外出を控えるなど、以前に比べ行動範囲が狭まりました。モビリティ様式も、電車やバスなど大勢の人が利用するものを避け、自車を利用するなど変化がみられています。外出自粛により自動車の事故率に変化はみられるのでしょうか。セゾン自動車火災保険株式会社(代表取締役社長 佐藤史朗)は、2012年5月～2020年12月時点でおとなの自動車保険に加入いただいていた契約者を対象に「自動車の事故率(対物・車両)」について調査を実施しました。

1. 自動車事故率は低下傾向。特にコロナ禍の影響が大きくみられる

今回、自動車事故の多くを占める「対物賠償(他人の車や建物、財物に損害を与えた場合の補償)」と「車両保険(自身の車が事故により損害を被ったり、盗難に遭った場合の補償)」の事故率に関して調査を実施しました。

いずれもここ3年ほど緩やかに事故率が低下しており、全体の傾向といえます。特に2020年2月以降大きく事故率が低下していることがわかります。

●自動車事故率の推移



自動車事故率低下の要因は以下の3つが挙げられます。

- ① コロナ禍の影響
- ② 自動車の性能の向上
- ③ ドライブレコーダーによる安全運転意識の高まり

直近1年間については、コロナ禍による全国的な外出自粛の影響で、旅行やレジャーといった遠出をする機会が減り、運転機会が少なくなっていることが自動車事故率の低下における大きな要因と考えています。

3年ほど前から緩やかに事故率が低下してきている要因は、自動車性能の向上にあると考えられます。自動ブレーキ搭載自動車など、安全運転支援機能がついた自動車の普及も関係しています。

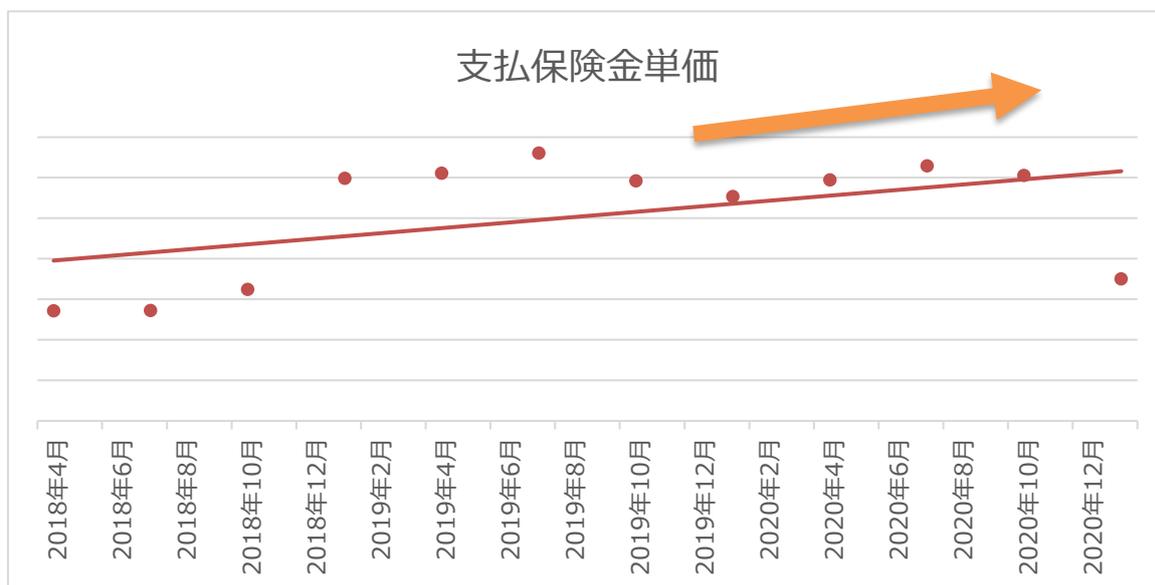
また、ここ最近ではドライブレコーダーの映像が報道番組で取り上げられるようになりました。ドライブレコーダーを取り付ける一番のメリットは、事故時の状況を記録できるという点です。もしもの時に警察や保険会社に対して、客観的に事故状況を確認できるドライブレコーダーの需要が高まっています。それ以外にも、ドライブレコーダーは運転者の安全運転意識を高めるとも言われています。映像をもとに自身の運転を振り返り、運転技術の向上に役立てるといった活用方法もあり、こうしたドライブレコーダーの普及が自動車事故率の低下に寄与していると言えます。

2. 自動車の修理費は高騰傾向

事故率と同様、自動車事故の多くを占める「車両保険」においてお支払いした保険金の単価についても調査しました。

いずれもここ3年ほど緩やかに支払保険金単価が上昇していることがわかります。

●自動車事故における支払保険金単価



支払保険金単価上昇の要因は以下の2つが挙げられます。

- ①増税影響
- ②自動車性能の向上などによる部品単価上昇

2019年10月以降、単価が上昇傾向にあることがわかります。これは増税の影響により、部品や修理費に対する増税分が保険金に反映しているためです。また、それ以前からも緩やかに上昇している要因としては、自動車性能の向上により事故率が下がっている反面、性能向上や

原材料費・物価の高騰により部品が値上がり、事故時の修理費が増えているということが考えられます。

3. ドライブレコーダーと自動車保険で万が一の備えを万全に

自動車性能の向上により事故率が下がっている反面、修理費は年々増加傾向にあることがわかりました。急な出費に慌てないためにも、自動車保険で万が一の備えをしておきましょう。また、ドライブレコーダーを搭載することにより安全運転意識を高めていただき、自動車事故自体を起こさないようにすることも有効です。さらに、ドライブレコーダーは万が一の事故の際には証拠として役立ちます。おとなの自動車保険は、ドライブレコーダーの映像をもとに事故状況を確認し、過失割合などの示談交渉にも活用できますので、未搭載の方はぜひご検討ください。

<セゾン自動車火災保険からのお知らせ>

「おとなの自動車保険」では、2021年7月1日以降を保険始期日とするご契約を対象に保険料改定を実施します。これまで割安としていた40代・50代に加え、新たに20代後半・30代の保険料を値下げします。

なお、今回の改定内容を反映したお見積りの確認、ご契約のお申込みは、2021年4月22日以降から可能となっております。

おとなの自動車保険 公式ホームページ : <https://www.ins-saison.co.jp/otona/>

以上